令和元年度　舞鶴市総合教育会議　会議録

◎ 開催日時　　令和元年 11 月 20 日（水）午後 2 時～午後 3 時 30 分
◎ 開催場所　　舞鶴市役所議員協議会室（本館 4 階）
◎ 出 席 者　　舞鶴市長　　多々見　良三
教 育 長　　奥水　孝志
教育委員　　荻野　隆三
教育委員　　岸本　純子
教育委員　　冨川　唯夫
教育委員　　内藤　行雄
教育委員　　堀尾　真由美

1.　市長挨拶

2.　報告事項
教育振興大綱事業計画書について
―事務局から報告―（資料１）

3.　協議事項
＜協議テーマ＞
『ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子どもを育むために、学校や行政、地域、家庭は何をすべきか』

＜論点＞
教育振興大綱「５つの基本方針」

(1) 生きる力を育み、子どもの夢をかなえる教育の推進
(2) 子どもを育てる教育環境の充実
(3) ふるさとを愛する心を育む教育の推進
(4) 地域社会で支える教育と子育て支援の充実
(5) 心豊かな生涯学習の推進

令和元年度舞鶴市総合教育会議

令和元年１１月２０日　１４：００

議員協議会室

■市長挨拶

皆さんこんにちは。

本日、舞鶴市総合教育委員会会議を開催いたしましたところ、本当にお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

日ごろより教育委員の皆様には、本市の教育行政の推進に格別なるご尽力をいただけることに関しまして、改めましてお礼を申し上げます。

さて、本年三月に策定しました、新たな「教育振興大綱」につきましては、皆さんと本市の教育に係る目指すべき課題や目指すべき姿を共有し、十分な意思の疎通と議論を重ねる中で、本市が目指す育てたい子ども像を「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」とし、基本理念を「０歳から１５歳までの切れ目のない質の高い教育の充実」と定めたところであります。

また、第７次舞鶴市総合計画に掲げる「次世代を担う若者や子供達に夢と希望」を与えるまちづくりにおいても、将来の人材育成は、今を生きる我々大人たちの果たすべき重要な責務であると認識しているところであります。

過日、「市長と中学生のふるさと舞鶴ミーティング」を開催しましたが、その中で次世代のまちづくりを担う中学生と本市の未来について、彼らの夢や希望を織り交ぜ、目指すべき将来の舞鶴の姿について語り、話し合いをしました。

彼らからは、これからのまちづくりに期待を寄せる声や、舞鶴が大好きで将来自らがまちづくりに関わっていきたいという心強い思いを聞く中で、この町に住み続けたい、一旦出ても戻ってきたいと思える、持続可能なまちづくりをさらに推し進めなけ

ればならないと、そういう思いを強くしたところであります。

本市の取り組みの中では、学力の向上や中一ギャップの解消など、教育環境の充実を図る小中一貫教育の推進と併せて、学校・家庭・地域との連携を、さらに強固なものにして、学校運営を行うためのコミュニティスクールも、本年度、全中学校区で設置されました。

一方、国においては、技術革新が一層進展した今までにない価値を生み出す新たな社会「Society5.0」の到来を見据え、学習指導要領においても１０年ぶりの改定が行われることとなっておりまして、子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するための教育が行われるなど、教育の果たすべき役割はこれまで以上に重要なものになっております。

このように、教育を取り巻く環境が大きく転換していくこの時期において、将来を担う子ども達に今後どのような力を身につけさせることが必要なのか。

また、その力を身につけるため、どのような教育を進めていくべきなのか、教育委員の皆様方と十分協議を重ね、より良い教育の実現に向けて、努めてまいりたいと考えておりますので、皆様方からの積極的なご意見をお願い申し上げまして、開会に当たりましての私の挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

■意見交換

（奥水教育長）

まずもって市長にはお忙しい中、大切な時間を割いていただきまして、大変ありがとうございます。

本日の会議を通じまして、市長と教育委員会が同じベクトルで舞鶴の教育を進めていくことができると考えております。

「教育振興大綱」に書かれております育てたい子ども像。

これは、最初に「振興大綱」ができた時から全く変わっておりませんので、それだけ大切にしていかなければならない、「目指す子ども像」ではないかと思います。

その子ども像を実現するために、私たち大人が何をするべきか、何ができるのかということが、今日のテーマであると考えております。

五つの論点を挙げられておりますが、この五つの論点につきましては、それぞれお互い関係性がございますので、一つに絞ることでは無く、私から総合的な話になりますが、若干意見を述べさせていただきたいと思います。

まず初めに、これからの時代が読めない、そういう時代がもう目前になってきております。

十年一昔と、昔は言いましたけれども、これから先は二年三年が、先がどうなっているか中々読みきれるものではないと思います。

ただ、どんな時代であっても、教育で「子ども達が生きていく力をつけること」そこに尽きるのでないかなと思いますし「いつの時代にも子ども達が生きていける力をつけてやりたい」と考えております。

今、盛んに言われておりますのは、将来子ども達が就くであろう仕事の中身が、今私たちが知っている仕事の中身と随分違ってくるだろうという予測がされております。

しかしながら、仕事全てが無くなるわけではなく、例えば人工知能、AIのことがよく話題になりますが、AIに取って代わられる仕事というのはたくさんあるかと思います。具体的に聞いたところでは、例えば、会計事務所のようなお仕事では、カメラで伝票の写真を撮ったりスキャンすること、それを通じてAIからコンピュータにデータを打ち込むというようなことができるそうですが、社長さんや経営者の、経営の悩みに相談するということになると、これはAIとかコンピュータの仕事ではなく、生身の

人間の仕事になってくると思います。

そういう、想像性が必要なクリエイティブな仕事というのは当然人工知能ではなくて、生身の人間がしていかなければならないことは間違いないと思います。

常々、私が思ってますのは、では、どういう力を子ども達につけていくべきか、三つ考えています。

一つは向上心。これは、これでいいというところでストップしないという思いであります。要は現状維持というのは、後退することだと思っていますので、現状維持ではなく、さらに上を目指す向上心がまず必要だろうと思います。

それから、二つ目は好奇心です。この好奇心があるおかげで、人類は進歩してきたと考えています。これはおもしろそうだなとか、こうすればもっと便利になるというような、そういう好奇心が私たちの生活を豊かにしていくのではないかと思います。

三つ目は良心です。ペアレンスのことではなく「良い心」の事です。良心ですね。人としての良心があれば、やはり周りの人から信頼されると思います。

「向上心、好奇心、良心」この三つがあれば子ども達はどんな時代でも、まずは生きていくことができるのではないかと思うのですが、それに加えてこれからの時代を生きるために子ども達に身に着けて欲しいと思っているのが「高度なコミュニケーション能力」です。

「高度な」ということをあえて申し上げたのは、例えば人の気持ちを推し量るとか、相手の気持ちになって考えるとか、そういう高度なコミュニケーション能力が必要になってくるのではないかなと思います。

次に、必要だと思っているのは、「自己解決能力」が必要ではないかなと思っております。

これからは、いわゆる私たちが若いときにやってきた知識の量を求めるのではなくて、本当に人間として生きていくその本質が問われる時代がやってくると思います。より人間らしく、豊かになるような仕事の仕方です。

何も考えなくてもいいような仕事は、人工知能が行いますので、そういう問題とか課題を解決するための力というのが、必要になってくるのではないかと考えます。

以上、五つの力をつけていくために、では、どういう教育を進めていくかという点ですが、市長のご挨拶にもありましたが、新しい学習指導要領が始まるので、いろんな本を読み、ネットなどを見ているのですが、なかなか頭の回転が悪いので理解しにくいところがある中で、こんな話をきいたことがあります。

無人島に子どもがいて、お腹がすいたと言いました。そこで、その子どもを海へ連れて行って「こうやったら魚が釣れるよ」と教えるのが今までの教育です。これからはそうじゃないんだよと。これからはお腹がすいたと言ってる子どもに「じゃあどうしたらお腹がいっぱいになるか」ということを問いかけます。

例えば、子どもが山へ行って木の実を採ります。きのこを採ります。あるいは野菜を作っておけば、貯蔵ができていつもひもじい思いをしなくてすみます。

また、海へ行ったら、魚が獲れるかもしれない。どうやって獲るか、何も釣りだけじゃないですね獲る方法は。そういったことを子ども達が解決していく。自分で課題を解決し、答えは一つじゃないんだという教育をしていくのが、これからの教育であるという中で、キーワードだと思うのは「社会に開かれた教育課程」ということを国もよく述べます。

学校なり、家庭なり、地域なりが、どうやってこの社会とつながっていくか、子ども達がどうやって社会とつながっていくかということが、これから求められるのではないかと思います。

これも、月並みな言葉で言うと、子ども達が地域で大人と触れ合うことによって、力をつけていくという側面が私はあると思っています。

大人が子どもに与える影響というのはたくさんあると思いますが、ある小学校で、自動車の解体をする自動車修理工のお仕事を見学に小学生が行ったそうです。

小学校の先生たちは、たぶん子ども達が自動車にいっぱいある部品の多さに驚くだろうなと思っていましたが、いざ解体が始まると、子ども達が歓声を上げたのはその部品の多さではありませんでした。

修理工の方が、それは見事に工具を使いきって、器用に分解してその様子を見て、子ども達から歓声が上がったそうです。

要は、そういう素晴らしい大人、モデルとなる大人を子ども達にどう見せていくのかということが、これからの子どもの育ちにつながっていくのではないかと思います。

これは子どもの責任ではないのですが、今は親戚の数が少ないですよね。

つまり、親の兄弟の数が少ないので、従兄弟の数も少ないですし、おじさん、おばさんの数も少ないです。

だから、昔だったら何か事があれば親戚の大人が集まって話をするのですが、今はそのようなことは、見受けることはございません。

そうなれば、家の中で無理であれば「地域の中で大人がいろんな子どもと関わりを持つ」ということが、これからの一つのキーワードになってくるという気はしております。

要は、「良い生き方をしている大人と子どもが出会うこと」これが一つの肝ではないかと考えております。

以上です。

（荻野教育委員）

初めに、市長には日頃から先頭に立って、教育の充実を図っていただいておりますことにお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私からは、思いのようなものですが、大きくは二点、お話をしたいと思います。

教育振興大綱にある、育てたい子ども像「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども」というのは、保護者や学校の教育関係者はもちろんのことですが、市民、みんなの願いではないかと思っています。

将来を切り拓く子どもという言葉から、私は見通しを持つ力、問題解決の力、失敗してもへこたれても、へこたれずに挑戦していく力、他の人と協力して取り組む力などが浮かんできます。

そうした力を持つ子ども達を育む環境としては、たくさんの事が考えられると思いますが、その中から二点述べさせていただきたいと思います。

まず一点目は、子ども達に自分で考えて選択する場面とか、経験を多く与えなくてはならない、と思っております。

それは、子ども達が自分の特性や、個性に応じて取り組む学校の部活動であったり、学校外のスポーツ活動、文化的な活動、公民館での講座、そういった事に取り組んでいくことです。

舞鶴市では舞鶴工業高等専門学校が、様々な科学教室を開催されており、そうしたことも子ども達にとっては貴重な機会になっていると思います。

先ほどもありましたけれど、学校の授業は、受身でただ知識を受け取る授業だけではなくて、子ども達が考えたり表現したり、また、積極的に授業を行う、授業に参加していく、そういった授業への転換に向けた取り組みが進められています。まだまだ道半ばであるとは思いますけれども、取り組みに期待したいと思っています。

言いたいこととしましては、子ども達が学習はもちろん、様々な活動を通して、目の前に現れてくる課題に対して一生懸命考え自己決定を行う、そしてそれを実行した

り、表現したりする活動を積んでいく事が、将来を切り拓く力を蓄えていくことにつながると思っています。

ただ、学校においても家庭においても、失敗すると子どもが可哀想とか、時間が足りないからといって、本当は子ども達に考えさせたり、判断させたりするべきところを大人が配慮して準備してしまうというようなことも多々あるように思います。

やはり周りにいる大人が、親とか学校の先生とかいうことになると思うわけですが、子どもの成長をしっかり見守って、子どもの頑張りとかそういったものを認め励ましていく、そうした大人が子ども達の身近なところにいるということが、まず第一点目に大事かなと思ってます。

それから二点目は、これは先ほど教育長もおっしゃいましたが、地域の多様な人たちとの交流が、子ども達の成長にとって重要であると私も思います。

朝の登校時に、見守り活動をされている地域の方と挨拶を交わすということも、本当に大事にされているという自己肯定感を育んだり、地域に対する愛着心を育むのではないかなと思ってます。

教育委員会の予算を組んでいただいている「夢講演会」というのがありまして、色々な分野で、業績を上げられている方のお話を聞く機会があります。

どの方もおっしゃるのは、単に平坦な道を歩いてきたのではなくて、失敗することもあり、二歩後退すると。しかしまた一歩前進すると。このように、あきらめずに取り組んできたことが、その成果につながってきたということを、同じようにおっしゃっています。

そうしたお話を聞くことが、子ども達にとって本当にかけがえの無い、自分の生き方を考えるきっかけを与えていただけると思います。

同時に私は、子ども達の身近な生活圏の中で、何かの仕事に取り組んでおられる方から学ぶということも、大切にしたいと思っています。

色々な仕事をされている方が、どんなことを大事に考えて仕事をされているのか、

どんなときに仕事の喜びを感じておられるのか、どんな苦労があって、それに対してどんな工夫をして仕事をされているのか。そういったことをお尋ねしたり、教えてもらったりすることは、仕事ということについての理解ということだけではなく、その仕事を通じて人の生き方というのを子ども達に感じ取らせる機会になるのではないかなと思っています。

先ほど、自動車解体の話もありましたが、例えば農業をやっておられる方であっても、本当に色々なことを考えながら、また工夫しながら良い作物を消費者に届けようと努力をされていると思います。

そういった話を聞くことが本当に子ども達にとって、大事かなと思っています。

学校の教育でいうと、それは「キャリア教育」ということになるわけですけれども、小学校から計画的にそういったことを積み上げていくことにより子ども達が将来、自分がどう生きていくかということを考えるときの一つの土台を作っていくのではないかなと思います。

ただ私が気になることとして、自己肯定感とか自己有用感を持てずにいる子ども達というのもやはりいます。

教育委員会で報告いただいておりますが、今年度の全国学力学習状況調査の付帯調査である質問調査では、舞鶴市の小学６年生の６人に１人が、中学３年生の４人に１人が「自分には良いところがありますか」という質問に、どちらかというとあてはまらない、またはあてはまらないと答えています。

近頃よくいわれる発達障害を持つ子ども達が、周りの環境に十分適応できずに、自己肯定感を持てずにいるのではないかな、そういったことも心配されるのではないかと思います。

やはり、何年か同じような調査を繰り返しますので、同じ子が同じ答えをずっとしているのか、あるいはどこかで答えが変わっているのか、あるいはその子がそういう答えをしている背景にどういったことが考えられるのか、プロフィールのようなことを、十分に考えてその子に応じた丁寧な対応をすることが、求められるのかなという

ことを考えております。

大きな二点目です。

ESDの推進について少しお話をさせていただきたいと思います。

国連のユネスコが提唱する、持続可能な開発のための教育というのは、あの英語の頭文字をとって「ESD」と呼ばれております。

持続可能な社会の担い手を育ようとする、そういう教育であるといわれています。

地球規模であったり、あるいは社会の様々な分野で、持続可能性が危ぶまれるような、そういった状況が明らかになる中、国連では平成１７年から取り組みを行っています。

私は舞鶴ユネスコ協会に所属をしていまして、そのESDの担当をしております。

舞鶴市がSDGsを推進する自治体として、国に登録されたということを、市政だよりでも読ませていただきました。

持続可能なまちづくりという観点からとても大事なことであるし、市民がそのことを理解して、市民が自分たちにできることは何かということを取り組んでいけるような、きっかけになればいいのではないかと思っています。

ESDではスローガンとして、「シンクグローバル」「アクトローカル」、グローバルに地球規模で考えて、自分の地域、自分の生活の足元で実践すると、そういったことがスローガンになっています。

若浦中学校とか、大浦小学校で取り組まれている、地域にある引き揚げ記念館で学習したり、あるいは学習したことをもとに生徒の中では、引き揚げ記念館で語り部になって活動してるい子ども達もいます。

そういったことが、やがてどこかで歴史を学んだり、あるいは平和について考えるときに、やっぱりその子の中で深い学びにつながっていくのではないかな、そういったことをＥＳＤは考えていると思っています。

子ども達はとても柔軟な感性を持っていますので、例えば小学校でしたら、太平洋の中で海がめが亡くなってたと、それを調べたら胃袋の中に海洋ごみとプラスチックごみがたくさん詰まっていたというようなことを知ったら、先生は何かちょっとリードをしてあげると、自分の身近にある食品を包む包装紙、プラゴミなんかを調べてみたり、そしてそれをさらに進めていくと、舞鶴市のごみ回収とかですね、そういった部分はどういう仕組み、どういう考え方でそれが進められているか、そういったことにつながる可能性もあるんじゃないかなと思います。

グローバルな課題が、自分の生活と結びついているということを知ることは、自分は関係ないのではなくて、自分も行動することが求められていると、基本にそういったことがある考え方だと思っています。

SDGsの概要については、実は小中学校の教科書に関連することが本当にたくさんあります。

それを授業で先生方が指導するときに、子ども達に、その授業の中でグローバルな課題であったり、あるいは自分たちの身近な生活の課題に目を向けさせたり、あるいはそういったことと結びつけて深く学習するような、指導ができるかどうかが、大事になるのではないかと思います。

先生方がSDGsに関心を持って、子ども達の学びがそういった広がりを持つ様なことになればいいのではないかなと思います。

また、そのために関連する多くの機関が舞鶴市にはあります。

市役所はもちろんなんですけど、舞鶴工業高等専門学校や高等学校であったり、海洋気象台、農協や京都府漁業協同組合とかいろんな分野で、どういった取り組みが今されているのかというような情報を集めていく、それをちょっと教育の中に還元していくというようなことも、とてもこの課題を進めていくときに大事かなというようなことを考えております。

以上です。

（岸本教育委員）

それでは、日ごろから市長、教育に力を注いでいただいていること、大変ありがたく思っております。ありがとうございます。

私は、今荻野委員から大変よいお話をいっぱい聞かされて、ちょっとその後何をお話しようかなと思っておりますが、具体的にと言いますか、重なる部分もたくさんあるのですが、少しこの事業計画から拾い上げた部分で、気になるところを申し上げたいと思っております。

切れ目のない教育の推進で、小中一貫と進めてまいりまして、それで授業が良くわかる割合を出していただいておりますが、過去の年度から比べてきますと、３０年度というのが、小学校は８０％台を推移し、小学校６年生は下がっています。

中学生は、中学３年生のパーセントがだんだん、３０年度は下がってきているんですね。せっかく小中一貫の取り組んできているのに、どうしてなんだろうかなと思っております。

全教科なのか一部の教科なのかわからないんですが、特に、英語の教育で中学生に聞きますと、「わからない」「おもしろくない」という答えが結構返ってくるんですね。

これは何とかしないといけないと思います。グローバルな社会で、舞鶴へもいろんな国からも来られるかと思うのですが、英語で少しおしゃべりができたり、いろんなことが勉強できたら、いろいろ楽しいと思うのに、その英語が中学生になってだんだんと、「わからない」「おもしろくない」ということも含まれて、このパーセントが小中一貫で下がってきているのかなと、ちょっと心配になっております。

それから、いじめ不登校対策事業で、不登校の生徒が、３０年度は増えてきておりますね。

これは小学校も、それから中学校も増えてきています。不登校というのは、なかな

か難しくって、私も、仕事上そういう相談受けることはありますが、なかなか子ども達の心理的なもの、全部がいじめではなく、学校に対する、あるいは教師に対するいろんな、原因があって学校に行けない、家から出れなくなってしまうというのが、これはやはり、教育委員会としても考えていかなければいけないなと思っております。

もう少し掘り下げて、教育委員会でなかなかこの数字だけしか出てこなくって、議論に上がってこないことも色々ありますが、もう少し教育委員会の中でもこういうことを考えていくべきかなと思っております。

それから「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども達」を育てるにはどうしたらいいかということですが、確かに、将来の夢を持つためにはもう少し、中学生なりに目標を持って、また、持てるように、そして自分の住んでいる町をもっと知る。

市長には、市長の出前講座や講演で舞鶴の魅力を知っていただくようにお話いただいておりますことは、大変ありがたく思っております。舞鶴の魅力を知ることはもちろん大切なことです。

私は、先ほどから出ておりますけども、子ども自身が身をもって体験する機会が多々あることが、そういった環境があるということが、子ども達にいろんな将来のことを考え、幅広くいろんなことを体験するということが大事かなと思っております。

いろんな、職業を見に行き、見学し、感じ取っておられたという事だと思うんですが、もっともっといろんな職業があるので、そういった機会、一つだけじゃなくていくつも、そういう体験する機会があればなと思います。

例えば、先ほどの農業もそうですし、それから林業、それからあの物を造る工業もですね、それから漁業も、そういったことをいろんな体験をすることによって、やはりいろんなことを考え、いろんなことを覚えていってくれるだろうと思います。

もう一つ言いたいのはそういった産業だけではなくて、他にもスポーツや、芸術の体験です。

日頃、何かの大会に参加するだけではなく、身近にそういうことが体験できるような場があればというか、夏休みとかあるいは土曜日とか日曜日とか、公民館等でなさってるのは見さしていただきましたが、もっともっと広く、こういったことが体験できる場があればいいなと思っております。

私事ではあるんですが、先日、１１月２日、３日に初めて、山麓公園、グリーンスポーツセンターの辺でしょうか、陶芸館に行ってきました。陶芸館は知っていたのですけれども行ったことはありませんでした。その時ちょうどタイミングよく、陶芸教室というか、小学生等に作らせてもらえるところを見学させていただいて、私も一緒に作らせていただきました。小学生の作ってる姿等を見てますと、本当に一生懸命で、やってるんですね、あれ難しいですよ。私自分自身が体験してなんて難しんだろうと、なかなか思うようにいかないし。でも小学生も一生懸命それを作ってですね。

それからしばらくすると、以前に作られたお子さんでしょうかね、やっぱり自分のつくったものを出来上がってるかなと思ってこられたんですけども、まだ少し時間がかかるみたいで、乾かして、あと窯に入れてとか、妙薬で塗ったりとか、時間がかかるので、まだできてないですよということでしたが、すごく、その表情見てますと、本当に目がキラキラ光ってて、嬉しそうでした。自分で作った、こういう体験を身近にしてあげることができれば、それなりに、何も陶芸家になるとかじゃなくて、何か物を作るという事に対してもすごくいい体験ができて、この子にとっては有意義な時間だったのだろうなと思って帰ってきました。

このように、実際に体験できることは、全てにいいことかなと思っております。

今の時代、「ＩＴ」、本当にこれは避けられないことですけれども、ネット等々で全てが、わかってしまうことは、頭の中でわかりますが、自ら、いろんなことが体験できることが、大事なことだなと思っております。

以上です。

（富川教育委員）

市長におかれましては、平素より歯科保険衛生事業に格別のご理解を賜っておりますこと、ご報告預かりまして厚くお礼申し上げます。

あの歯科医師会の代表でございますので、今度ともよろしくお願いいたします。

本日は、ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子どもを育むために、学校、行政、地域、家庭は何をすべきか、というのがテーマでございます。

三人の委員さんからは具体的な内容を述べられ、大変参考になったところでございますが、私の話はちょっと総論的な話になりますので、どうぞお許しをいただきたいと思います。

先ほど述べましたように、学校、行政、地域、家庭、それぞれに果たす役割があると思います。

学校現場においては、まず子ども達一人ひとりの特性といいますか、「個性」、を授業を通じて、また学校内の様々な行事を通じて、あるいはクラブ活動、学校生活を通じて、知っていく必要があると思います。

その上で、子ども達が夢を持ち、それを実現するために、先生方、学校一丸となってその能力が発揮されるように指導していくことが、大切ではないかと思っております。また併せて、先生方の結果の出る指導能力が不可欠であることも、重要な点であります。

次に行政の役割ですが、これは様々な形の充実感、満足のいく教育環境を整備することが重要でございます。

学校現場からの要望やそれを受ける、それに対しても教育委員会として、できうる限り支援していくことが重要であると考えております。

そこでちょっとエピソードなんですが、多々見市長はふるさと講義を毎年開催され

ておりまして、私も興味深く拝聴しております。

この前も、和田中の２年生の女子生徒とＬＩＮＥしましたので、「先生も教室で市長さんのお話を聞いとったんやけどどうやった」と聞きました。「えっ、先生も聞いとったん。なんで聞いてたの」、「私も出席できるので、聞いとったんや」と言いました。びっくりしてましたが、その女子生徒は「難しい事も言うとっちゃったけど舞鶴って良いとこやな、少しわかった」、そういう感想を話してくれました。

このように中二の生徒たちもふるさと舞鶴のよさを知り、この舞鶴を愛していってくれると確信をしました。今後も続けていただきたいと思っております。

我々も、それぞれの立場で積極的に、舞鶴の良さを発信していくことが重要であると思っております。

また、地域については先ほどから発表されておりますように、その地域の特有の行事と伝統的な行事が、そして、子ども達が参加できるような、そういう形の取り組みが必要ではないかと思っております。

その土地の様々な歴史を学んだり、またボランティア活動なども通じて地域の良さを知り、そのつながりを再認識する、積極的な取り組みが必要ではないかと思っています。

最後に家庭ですが、これが一番難しいところかもしれません。

家族の価値、これには様々な家族、形態があり、時代を反映した今までとは異なる形になっていることは否めません。

しかし、家庭においては、基本的には子どもが主体的に行動し、考える子どもに育っていくことが大変重要であり、これは成長していく過程の重要な基盤ではないかと考えています。

子ども達は様々で豊かな個性を持っています。私たちは将来、夢を持って力強く生きていってほしいと願っています。それには、家庭における親の役割が重要であります。

また、親はそれを実践していく上で、その能力、見極める能力が必要となってきます。

先ほど申し上げましたように、総論的なお話になってしまいましたが、やはり学校、地域、家庭、この三者が一つになって、様々な課題に積極的にお互いが協力して、また理解し合って、取り組んでいくことが、大切であろうと思います。

以上です、ありがとうございました。

（内藤教育委員）

市長には本当に、スポーツ協会としてもう年中色々お世話になっております。

ただ、ご期待に応えられていないということに対して、いつも心苦しく思っているところでございます。

私から今回のこの教育振興大綱について、感じていることとしてお話をさせていただきたいと思っております。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私は高等学校の教員として３８年間、教育に携わってまいりました。

こうして教育委員というお仕事を拝命しまして、義務教育に触れるという機会をいただいて、ただただあまりにも違いというのか、私の考えていた姿と違うので、驚くことがあります。

教育委員という立場で、最近学校へ寄らせていただく機会が、大変多くなりました。教育委員ということで、近所の保育園からもお仕事をしてくださいということで、声をかけていただいたり、また、近隣の小学校から、地域支援協議会のお世話をお願いをしたいと、いろんな形でお願いをされます。

最近では何が仕事なのかわかりません。

そんなような状況で、関わらせていただいていますが、小学校や中学校へ行かせて

いただいて、まず一番驚いたのは、とにかく先生方が元気であると、そして子ども達が生き生きと活動している。

そういう姿を見ると、私も学校で校長という仕事をさせていただいた関係上、まずこの学校は大丈夫やなという感想を持つことができます。

それがあの、限られた学校ではなく、行く学校、行く学校で、同じような風景を目にしますと、舞鶴のこの教育大綱は間違ってないなと、皆さんこれに向かって仕事をされているんだなと、受け止めさせていただいております。

高等学校と義務教育とは若干違うところがあると思うんですが、私は高等学校の教員として何を中心に考えていたかというと、やはり目先の進路実現ということを中心にやっておりました。

それに比べて小中、義務教育は、非常にきめ細かくそれぞれの子どもに対応されているなと思います。

いわゆる、私も教員時代一番大事にしたのは、「目配り、気配り、心配り」ということで、いかに子どもと接して、その子どもの可能性とか、能力とか、そういうものが引き出せるかということを、最大限注意して見ておりました。

そういう付き合いをするというのか、子どもの何か新しい夢とか、そういう希望を見つけてやることが、教員の仕事であるとこれまでやってきたところでございます。

そういった経験も踏まえて、この教育振興大綱というのを作成することに関わらせていただいて、五つの基本方針というのを立てておられるわけです。

特に子どもの大きな夢をかなえたり、希望を持たせてやるためには、教員の関わりというのが、学校では一番必要になってくるんじゃないかなと思います。

そういった意味で、今、働き方改革とうので、先生方の忙しさを少しでも改善しようと努力されていること、これは必要ではあると思いますが、その教育の質の問題、今までできてきたことができなくなるということが、ちょっと今心配しております。

どうやってその働き方を改善していくかというのは、それぞれ地域とか学校によっ

ても違うと思いますので、そのあたりを学校から、あるいは行政としてみるとか、いろんな形で考えていくことが必要ではないかなという思いでおります。

それと二つ目に、教育環境の充実ということで、これはもう言われるとおり、教育を行っていくためには様々な環境が必要です。

そのためには、いわずと知れた、「人、物、金」であります。

ただ、これも限界がありますので、財源を少しでも確保していただくのは、これは教育指導さんを中心とした、議会のお仕事になると思いますけれども、最低必要なところ探していただいて、予算をきっちりいただいてもらうのも、大事なことだと思っているところでございます。

教育環境を整えるというのは施設設備、いわゆるハード面が中心になるかと思いますけれども、やはり人的な配置であるとか、今中学校では行われております、放課後のクラブ指導の方を使っていただくとか、もう少し増やしていただくと、もっと先生方が楽になるのではないかなといったことも思っております。

あと、ふるさとを愛する心を育む教育。

これはもう先ほどから出てますように、市長が先頭に立っていただいて、ふるさと講和をやっていただいております。古い話なんですみませんが、我々の頃は自然に地域から地域の歴史を教わったり、あるいは舞鶴の歴史を教わったり、いろんなところで関心を持って、必要であれば自分で学んだように思います。

私は西舞鶴地区の出身ですので、田辺城のいきさつであるとか、いつも出てきます関が原の合戦のときに、石田光成軍を追い返した細川親子の活躍であるとか、そういったものは自然に覚えたような気がしております。

また、東地区はどうやって発展したか、これはいわゆる舞鶴の海軍鎮守府が置かれたときから、東舞鶴は開けていった話であるとか、あるいは、戦後６０万人の引揚者を受け入れた舞鶴の港のこととか、高校を卒業する頃には身についていたと思います。

初めて舞鶴を離れて大学へ行ったときに、意地悪な４年生の先輩が「お前ちょっと来い、どっから来たん」、「はい、舞鶴から来ました」、「舞鶴の特徴を述べよ」と言われた時に、「それではよく聞いてください」と言いまして、舞鶴のその関が原の合戦と、それから東郷平八郎さんの話とか、そういったことをいろいろ語りましたら、それ以後その先輩たちがどんなに大事にしてくれたか、今でも覚えております。

それほど、ふるさとを知るというのは大事なことだと、私自身思っております。

かつては地域の方々がお祭りの機会とか、町内の行事の機会とかに教えていただいたことを、今は、学校で用意しなくてはなりません。

ただ、地域の方々が何もしてくれないわけではなく、学校からお願いすれば必ずお手伝いをしてくださっております。

先日、明倫小学校の「自学の広場」というのがありまして、私も寄せていただいたのですが、そこには地域の、それこそ我々と同じぐらいの世代の方が、一生懸命子ども達と遊んでおられました。

それを見ておりまして、声かけたら皆来るのになと思って、また来年もよろしくお願いしますと言って声はかけました。

そういうことも、地域連携をしていく上でも、必要ではないかなと思っております。

地域連携も以前から比べると、地域の役員さんだけが参加するとか、特にどこでも言われるのですが、若い世代がなかなか、学校の役員をされている保護者の方は一生懸命参加していただくのですが、それ以外はただ見てるだけというような感じだったので何とかならないかと思っております。

今日の午前中でしたが、舞鶴市の「未来推進会議」というところへちょっと行っておりました。そこでも舞鶴の未来、これが記されておりました。

本当に、いろんな見方をしなければならない時代、教育長も言っておられましたが、今の時代ついていくのが大変です。

横文字が出てきたら必ず、帰って内緒でパソコンで意味を調べたり、そういうことが本当に必要になってきました。

そういう中で、今の子ども達と付き合うためには、大人も子どもに近づいていく、いろんな勉強をしなければならないと思います。

これからの時代、未来を担う子ども達を育てるといった意味で、それぞれが持っている役割を果たしていく、地域の一員として、またこうしていろんな立場で関わっている者として、その役割を果たしていくのが大事かなと思っております。

以上が、今私が思っている感想でございます。

（堀尾教育委員）

私からは保護者の視点で、もう少し細かい話になります。

現在学校において、教職員の方々は日々膨大な業務をこなしながら、子ども達のために頑張って下さっております。

先生方の疲弊はそもそも、教育長のお話にも課題としてありましたが、時代とともに変化してきた地域社会のつながりの希薄さであり、そしてなにより、私にも、家庭での基本的なしつけの力の低下によるものだと考えており、保護者としては感謝と申し訳なさと、尊敬を常に感じております。

またこのような状況で、教職を志してくれる若者があれば、諸手を挙げて歓迎したいと思ってしまいます。

けれど一方で、先日ありました神戸の教師間のいじめの件、加えて教員採用倍率がかつての１５～１６倍から、３～４倍となり教員の質が担保できないという声を、本年度に入ってから地元の現場の先生から複数回お聞きして、不安も覚えました。

教育振興大綱では、教職員の資質能力の向上のため、研修の充実が図られておりま

すが、これは当然、教職員となってからのものであります。

また、一部の保護者は誤解しているのですが、免許更新制度は不適格教員を排除する目的は無いので、知識、技能のアップデートはできても、資質を見直す機会にはなりません。

では採用時に、教員としての適正は何をもって判定されているのか、これは我々の関与できる部分ではないと思うのですが、数合わせにならないことが大切だと思います。

舞鶴市においても、採用直後のケアーを望むところです。

そして教職員同士の問題に、ちょうど本日の定例教育委員会で説明いただきました、教職員人事異動要綱には「問題がある場合には、管理職の先生方にも一般の教職員にも、厳正な対応を図る」とありますが、特に先生同士の問題があった場合、管理職の先生が含まれると、一般の教職員の方が、管理職の先生を飛び越して教育委員会の問題に提起できるかどうかは、非常に疑問だと思います。

また、いわゆる第三者委員会というものは、いじめから子どもを守る会議であって、教員同士の案件は対処外だと思います。

ここで、舞鶴市においても面談ヘルス対策としての、ストレスチェック制度というのが導入されていると思うのですけれども、産業医と呼ばれる方々の存在があるのか、実際にこれらが機能しているのか、気になっております。

以上です。

(多々見市長)

それぞれの立場から、色々なご意見、考え方をいただきました。

最後のメンタルヘルスは、やっておられるのですか。事務局、回答願います。

（学校教育課　瀬野主幹）

医師の面接指導につきましては、教育委員会では、産業医ではございませんが、医師の面接指導についてのみの業務を医師へ委託させていただいております。

全教員に対するストレスチェックにつきましては、教育委員会の中で、今年度はできておりませんが、次年度に向けて実施を検討している状態でございます。

（多々見市長）

いずれにしても教育委員会では、気にはかけてて、チェックシートを使って、委託してる先生に会って、相談をするということをやってるようです。

あとは、それぞれの皆さんの考え方を伺うというような状況で、明確な質問っていうのは特に無かったように思います。

皆さんから話を聞かせていただいたので、私の思いも少し述べたいと思っております。

私が役所に入りました時に、「市長は教育に関与したらだめである」、「何も口出し出来ない」といわれました。

規則は守るが、寂しいなと思ってましたら、三年ほど前に新しい教育委員会制度ができて、首長は教育の安定のため、色々な方向性を決めることができるようになり、初めてこの教育振興大綱の作成に関わらせていただいたということです。

当然、私は教育のプロではありませんが、基本の基本である、私の思いを色々述べさせていただく中で、素人の私の「根っこの思い」が、この舞鶴教育振興大綱にはたくさん入っております。

今回の大綱につきましても、細かい文言は変えましたが、骨組みは全然変わっておりません。

この振興大綱ができた経緯については、私も積極的に関わらせていただき、プロの教員の皆さんや、いろんな立場の人の意見も聞いて決めたということです。

あくまでも、「勉強ができる子」というのは一つも書いてありません。

「夢に向かって将来を切り拓く子ども」ということが重要でありまして、子どものそれぞれの特徴、足の早い子も、相撲の強い子も、勉強の得意な子も、様々な特徴を生かしながら、その子どもが将来大人になっていく時に、しっかりと自立できるような子どもを、「たくましい子ども」を育てていきたいというような根っこであります。

こういった中で、その先ほど教育長が非常に難しい時代になってきて、ＡＩとか、が出てくる中で、単純な仕事はＡＩに取って代わられるだろうと。

私もそう思いますけれども、やはり人間とＡＩで明らかに違うのは、人間には寿命があり、それと人間には心がある。

ＡＩに心や寿命は、まずありません。

例えば、こういうテーマで俳句を作ってくれますかといってＡＩに作らすと、おそらく１時間に１０００句ぐらい作るかもしれませんが、人間であればせいぜい作っても５句ぐらいだと思います。

そして人間とＡＩの大きな差は、ＡＩ君にこの１０００句の中で、君が一番気に入った俳句はどれですかという問いに、おそらく答えないと思います。

なぜなら、一定の基準でつくるだけですから。

一方人間だったら、私これが一番気に入っている順番にすることができると思います。

そういう意味では、人間は絶対にＡＩに負けないと私は思ってます。

ＡＩに負けるとすれば、それは単純作業、単純な考えを出す答えには負けると思います。

彼らはスピードが速いですから。

でも、そういう人の心を問われるようなことは、まず人間の勝ちだと思っておりまして、まさに人間はＡＩに勝つという立場で、様々な難題を解決していくということ

が必要だと思っております。

あと難しい時代、変化が激しい時代だからこそ、「基本の基本」をしっかり持っていないと、変化についていけなくなると思ってます。やっぱり基本はものすごく大事だと思ってます。

私なりに思う基本といいますのは、いくつかありますが、本当に弱い人、真の弱者を助け合う社会。この人達に、これ以上何を求めるのか障害もあり、例えばお母さんも障害、子どもも障害がある、そういった本当に弱い人を助けることが必要で、その主役が行政だと思ってます。

あと何も努力せずにあれをして、これをしてというのは、私は厚かましいと思っております。

まさに努力が報われる社会というのが、実現すべき社会ですし、もう一つは、信頼を裏切らず感謝を、約束を守り、感謝を忘れずにという、これ、ＡＩにはこんな心は植えつけられないと思います。

やはり、信頼を裏切るのは、人間だから判断できるので、ＡＩが人の心見抜いて、裏切ったかどうかまず分からないと思います。

こういう気持ちの問題が一つ。

また、それと狭い自分の立場ばっかり主張するのは駄目で、広い視野に立ち、広い視野に立ち、ものを判断するということ。

その中でできるだけ公平で中立的に判断する、また、いろんな人の立場を考えて物事を判断するとが、私は必要だと思ってます。

一方的な狭い領域から、間違った判断することがありますので、広い視野に立ち、そして公平、中立の気持ちで判断してくことが、いつも大事だと思ってます。

今お話ししたようなことは、幼いときから培われるものだと思っておりまして、二十歳過ぎてから今こんなこと言っても、また真の弱者を助け合うって言っても、おそ

らく弱い振りをしている人と、本当に弱い人との区別もつかないと思います。

幼い時のしつけ、教育は大事で、この舞鶴の振興大綱に乳幼児教育と入っております。

質の高い、乳幼児教育の推進というのが入っています。これはおそらく他の教育振興大綱と少し、違うのではと思っています。私は教育の重要性、特に小学校に上がるまでの教育が、極めて重要だと思っています。

最近、舞鶴でも親が子どもを虐待するケースが、どんどん増えてきているということを聞いております。

では、なぜそういうことが起こっているのだろうかということも含めて、様々な悩みを持つ中で、松尾寺の心空和尚に相談したことがあります。

非常に私自身も思っていることですが、昔、昭和すぐの生まれの人はすごくつらい思いを、貧しさや飢えを感じながら生きてきた。

和尚が言っておられたのは、あるときに饅頭を貰ったが、その饅頭は食べたらすぐなくなるからもったいなくて食べられなかった。

ポケットに入れといて、あるときどうしてもお腹がすいたときに、食べたらすぐなくなるから舐るようにして長持ちさせて、その饅頭がなくなったら本当になくなってしまったたという、そういうことを経験したゆえに食べ物を大切にするのではと。

食べるものを捨てるっていうことはもうしないと、食べ物を大切にすることも、そういうことも教えてもらったし、また、板の間で寝ることの寒さ、そのとき一枚の新聞紙でも紙があれば寒さを防げることも学んだ、ということで、食べることやその寒さから逃れることの重要さ、厳しい環境におかれたものは、まさにいろんなありがたみを感じる。

今のように小さい時から、何にも不自由が無いように育てられ、してくれて当たり前で、何でしてくれないのかと要求ばかりが増えてきて、なかなか幸せだとか満足は、何を持って感じるのだろうかと自分は思うと言っておられた。

私もそのように思っておりまして、こういう行政の仕事をしておりますと、あれもして欲しい、これもして欲しい、もっとして欲しいと言われても、その資金は限りがあるわけです。

そうなると、一定優先順位をつけざるを得ないですし、自分や身内できることはやっていただきたいなと、自助共助はお願いする中で、本当に弱っている人は我々が見抜いて、助けに行くというのが行政の有り様ではないかと思っております。

行政における住民サービスのあり方についても、やはり色々と思うことがあります。

あと加えて、先ほどの親の子どもの虐待についても私なりに思うのは、ある意味生きるために親が働かければならない中、その間、子どもさんの面倒を見るというようなことは、私は当然だと思っています。

ただ、いろんな事情があるにしても１１時間保育をするケースがあるということです。中には１１時間働いている人もおられるのでしょうけども、中には遊びに行くために預けている人もいるのではと思っています。そのようになると、その子どもは、そういう親の子どもは、何でうちの母さん早く迎えにきてくれないんだろうと、寂しい顔をしてるということになります。

仕事が終わったらさっと迎えに来る親、一方で少し遅れてくる親。

その後れてくるお母さんの姿を見ると、家を出る時には、仕事に行く格好をしていたのに迎えに来たときには、遊びに行った後の格好をしていると。いくら２歳３歳でも、絶対に馬鹿にしちゃいけないんです。

もうわかっています。親は遊んできたと。何で早く私を迎えに来てくらないのだろうと、そういう思いの中である時につい寂しくて、「何でお母さん早く迎えに来てくれないの」というふうに言ったとき、その母親の虫の居所が悪い時には「お母さんだって遊びたいんだ」と言って、しつこく言うと叩かれると、そういうケースもあります。

そうすると子どもは、これは親だろうかと思います。一番かわいがってくれる親が、なんで「私を早く迎えに来て」と言った時に「私も遊びたいから」と言うのだろ

うかと思います。

こういったことがあれば、当然、子どもは歯向かってきます。

年が大きくなるにつれて、親を親とも思わなくなってきます。

そうなれば、力の強い、子どもが小さい時は大人の勝ちですので、虐待というのが起こるんじゃないかなと思います。

そういうことを経験してきた親は、また自分の子どもにしてしまうと、いうようなことも言われています。

まさに、今、親は子どもを大切に育てるという、この原点が少しずつ弱くなり、また、してくれて当たり前で、自分で自分にかかる負担をとろうとする、そういう意気込みが薄れてきているのではないかと、強く心配しています。

してくれて当たり前と、何でしてくれないのかと。今までしてもらって温室育ちで大きくなり、ある時に負荷が加わると、自分が悪いとは思わずに何でこんなことになったんだろうと感じる。

会社が悪い、相手が悪い、行政が悪いという。そういうような思考になってしまって、ストレスにすごく弱いんじゃないかなと思います。

それまで苦労せずに大きくなると、ちょっとしたストレスに対処できなくなるというようなこともあると思います。

今、そういった点で大きく悩んでおります。

このまま時代が進むと、義務ばっかり負わされて、権利ばっかり主張して、うまく行かないとすぐ追求されるという。

このギスギスした社会で、「いたわり」とか、「お互い様」とか、そういう言葉が中々行き交わない時代において、今後どんな風に行政を対応してくべきなのか、また、子どもの教育は、本当にどうしたらいいのかは、もう国レベルで考えないといけないと思っています。

例えば、先ほどの話ですが、貧しい思いとか、つらい思いをさせたらいいんだとい

う、意図的にそんなことはできませんし、サービスを減らしたら、何で舞鶴だけサービスが減って、綾部や福知山では、ともいわれます。

いわゆる、優しさ、愛情を持って、いろんな苦労をさせて、その子どもの成長を促そうというような、大昔は一部あったと思いますが、それはそれで時代の中では耐えられる環境であったと思いますが、今は自分の子どもだけひどい環境に追いやったら、これは何を言われるか分からないですし、子どもに何を思われるか分かりません。

そういった意味で、非常に難しい時代で、私自身は先ほどの話ですけど、原点はやっぱり、「強い者は弱い人の面倒をしっかり見る」ということだと考えています。

トランプ大統領のように、アメリカファースト。世界一強い国が、自分の国が中心なんて絶対に強い人が言ってはダメだと思います。

弱い人の立場が無い。やはり、強い者は弱い者をかばう。これが強い者の役割だと思います。

そういう弱者を救う、そして頑張った時には努力が報われて、「頑張ったね」とか「すごいね」という、そういう褒め言葉も必要じゃないかなと思っています。

また、まちづくりは、子どもからまちづくりを手伝ってもらうことも必要だと思っています。

ドクターTのひとり言を書いていますが、その文章を一部読みたいと思います。私は地域一帯となった全員野球で、まちづくりを行いたいと考えており、その実現には、子ども達の参加が重要で、そのことを実感した好例を紹介します。

中舞鶴小学校五年生の皆さんが、総合学習の授業で町歩きをしたとき、「藤の森の海岸の公園」の存在を知り、そのとき案内した人が、「昔はここ海水浴しとってな、公園やったんだ」と言われていたんですが、そこは草ぼうぼうで全く人が入れない状況になってたのを知って、昔のような活気を取り戻そうと、この５年生の子ども達が清掃活動を行いました。

それを知った地域の方々は、私らも手伝うということで、「藤の森の海岸の公園」が

再生され、そして「ふじのもり祭り」が１０月２０日ごろに開催されました。

そのとき児童代表が、「笑顔あふれる所にしようとの思いで取り組んできました。」と挨拶していました。

本当に私も嬉しくて、その小学生を褒めました。

「君らでも頑張ったら変わるだろうと。その時に小学校の先生がおられて、先生ありがとうございました、先生が色々教えてくれました。」

「いや、私は何もしていません」と言っていましたけど、先生がどのようにやったらいいか作戦を教えて、そしてそれを地域の人が知って手伝い、それを知った市役所の地域づくり支援課も知っててそこにいましたし、私もそれを聞いて励ましに行ったという、そういう好例がありました。

またもう一つは、「南舞鶴のふれあいサンデー」というがありまして、南福祉協議会がそれをやってるんですけど、来年で設立５０周年を迎えるということで、福祉協議会の会長さんが、是非協議会の旗を作りたいということになりました。ならば、青葉中学校の美術部。まさに、地元の中学生に頼もうということで、頼みましたら、すごいいいのを作ってくれました。

下の色が真っ青で、舞鶴の青い空、舞鶴の海、その青い空をバックにして鶴が舞ってて、その鶴の周りを取り囲むように花束があって、そこに２８の桜の花びらがあって、「どうして２８ですか」と聞くと、２８の団体が、協議会を構成していることで、下に締めた結び目があって、みんなで結束するんだということで、まさに「地域の絆」を表現したんだというふうに中学生が言っておりました。
すごいなという風に思いました。

あともう一つ赤レンガハーフマラソンで、市内の小学生が作った応援カードを参加者に送ったようです。

ここにいくつかありますけど、小学生の絵なんです。

すごい綺麗な、これを走った人みんなに配ったらしいのです。

一部の市外から来られた参加者は、こんな温かい応援カード貰ったの初めてだと、「その子ども達にお礼言いたい」と、そういう話もしてくれました。

こういう例がたくさんありまして。

そういう中で、次の時代を担う子ども達のまちづくりは極めて大事です。

まさに彼ら彼女らは、ちょっとサポートすれば行動しますし、適切なアドバイスと協力をすれば、町中でこんなこと起こるだろうと思っていまして、そういったことを市民の皆様に紹介していきたいと思います。

まさに地方創生、地方創生って言って騒いでいますけども、私は、原点はこの町で生まれた子ども達が良い環境で育つ、そしてこの町には働くところがある。

一旦このまちを出るけども、他所で知識を得てまた舞鶴に帰ってくると、そういう思いを持ってもらうことも増やしたいなと思っております。

私が出前講座に行く前に、「将来舞鶴に戻ってくる」かと各７つの中学生に聞きましたけど、半分は戻ると、半分は出てくと言いました。

私が講義に行くようになって、７割が戻るって言ってくれました。

２割増えるんです。７割の子どもは地元に戻る、３割は出てくと。

私はそれが適切な配分かなと思っています。

全員残るなんて誰も言いません。

才能があって、是非東京で仕事してくれという子もいますけど、一方で、仕事もあり、自然豊かで、歴史文化があり、おいしい食べ物があり、友達がいて、こんないいところはないということを、私自身、よそ者ですが、３７年住んでいますので、私の地元より一番長く住んでいるのが、舞鶴です。

そういう思いで、これからも教育、基本的に、全ての教育に関わらねばならないですが特に、義務教育。中学校までは市の責任だと思っていまして、舞鶴で生まれて良かったと、舞鶴で教育を受けて良かったと思ってもらえるようにです。

決して、子どもの成長において、親の生活環境で子どものチャンスを潰したらだま

だということで、スタートは平等と思っております。

その後の走りにおいて差ができても、それは本人の努力などになりますので、そこまで責任はとれないですが、子ども程弱い立場ですから、人生のスタートは平等にしてあげたいと思います。

その後は、自分たちにも責任があるんだよという思いでやっていきたいなと言うふうに思います。

色々な点で、資料の各論では、もっとこの方がいいんじゃないかという話もあろうかと思いますが、手紙でもいただければ、またそれについて思いを述べたいと思います。

とにかくこの町が元気になるようにその原点は、この町で生まれた子ども達が「自分の町で良さを気付けば、また、誇りを持てば、絶対にこの町は生き残る」という思いを強く持っていますので、またご支援よろしくお願いします。

以上